



3147 日で生まれた奏輔くん。
現在では15ヶ月と、すくすく成長中



左から津曲映乃葉さん、奏輔くん、奎輔さん
公園内を走り回る奏輔くんを2人で追いかけていました

子育ては周りを頼って 楽しくのんびりと

「大変なこともたくさんあるけど、楽しんで子育てしています」と笑顔で話すのは、現在3歳の奏輔くんの子育てに奮闘中の津曲奎輔さん、映乃葉さん夫妻。2人とも小林市出身で、地元での子育てを楽しんでいます。

都城市の病院で出産した映乃葉さんですが、妊婦健診は小林市立病院で受診。大きなお腹で10回以上受診する妊婦健診だからこそ、身近な病院で受診でき助かったと話します。

「本当にちゃんとお腹の中にいたんだ」「感動してすごく泣きました」と出産を振り返る2人ですが、出産を期に生活は一変。

「最初は家が散らかり、子どもの世話で一苦労でした」と奎輔さん。「3時間おきの授乳などでゆっくり寝られない日々が辛かった」と映乃葉さん。

当時は急変した生活に、些細なことで喧嘩するようになっていたとか。

そんな生活が続いた2人は笑顔で子育てをするため、「周りを頼ること」、そして「がんばりすぎないこと」この2つを意識するようになったと話します。

家からすぐ近くにある奎輔さんの実家から、子育ての手伝いや、ご飯をもらうこともあり、「1食用意しなくて良くなるだけで余裕ができて、助かるんです」と映乃葉さん。

以来、子育てを楽しめるようになった2人。「完璧な子育てはできていないと思うけど、だからこそ楽しめる」と笑います。

「ハイハイや歩くことができるようになったとかそういう瞬間が凄くうれしいんです」「子育ては大変なこと多いけど、それ以上に奏輔はいつも家で私たちを笑わせてくれる」。

これまでの子育てを振り返り、そう話す2人に、子育てを楽しむコツを聞くと、声を揃えて。

「のんびり。気楽に——」。



気楽にあせらず みんなで子育て

「子どもはかわいいけれど、子育てが辛い」。「妊婦健診が遠くて大変」。

さまざまな苦勞を抱えながら子育てに奮闘するパパママたちがいるのを知っていますか。

そんな不安や苦勞を少しでも軽くして、誰もが安心して子どもを産み育てられるまちにするために。

子育て中の人や将来子どもを産みたいと考えている人、子育てを支える地域の人、一度、このまちで暮らす私たち全員で、子育てについて考えてみませんか。

●問 = こども課 TEL 23 - 1278

子どもたちのために何かしたいと考えている方へ

あなたの支援をお待ちしています——

小林市子ども応援基金

安心して結婚し、子どもを生み育て、将来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進するために創設した、個人や企業、団体を問わず寄付いただける基金です。子どもの貧困対策、少子化対策、子ども・子育て支援事業などに活用されます。



詳細はコチラ↑



みんなで子育てしませんか——

三世代同居等促進事業補助金

親世帯との同居や近居のための転居費用を補助します。



詳細はコチラ↑



こんな支援もあります

妊娠・出産時の経済的負担を軽減——

小林市出産支援金

妊娠1回につき3万2千円を支援します。



詳細はコチラ↑



育児用品をプレゼント——

小林市おめでとう赤ちゃん祝品

紙おむつやおしりふき、木工玩具などを贈ります。



詳細はコチラ↑



新生活支援！最大30万円補助——

小林市結婚新生活支援事業

新婚夫婦の住宅取得費用などの一部を補助します。



詳細はコチラ↑



全国で4社目。女性活躍と子育て・不妊治療への支援に取り組む。

えびの電子工業株式会社 津曲慎哉 社長

市内に生産工場を構えるえびの電子工業株式会社は、従業員約650人の7割近くを女性が占める、自動車やスマートフォン関連の部品生産などを行う企業。

以前から従業員の働き方改革を進めてきた同社は、今年の9月に女性の活躍を進める企業が認定される「えるほし」と、子育てと不妊治療に取り組む企業が認定される「くるみんプラス」に認定。どちらも厚生労働相が認定するもので、最上位評価の「プラチナ」認定を受けました。両認定でプラチナ評価を受けたのは全国で4社目。同社

で取り組んでいる支援は、育休の利用推進や不妊治療の支援休暇制度の新設など多岐に渡ります。

社長自身も育休を取得した経験から、育休の利用推進を進め、昨年度は男女で取得率100%を達成。

「産後の妻が一番つらい時に、頼りにならないといけないと感じました。当時は家族全員大変だったけど、子どもの一番可愛い時期を見られるのは苦しんだ人だけの特権ですよ」当時を笑って振り返る津曲社長。

全国的にも注目を集めている、同社の取り組みのコンセプトは『地元で家族と自分らしく暮らす』。

介護休暇の拡充や、年休取得を昇進の条件に加えるなど、取り組みは子育てに限ったものではありません。「誰もが休みやすい環境を整えることが、結果的に育児もしやすい環境になっているだけ。子育ても介護も家族の対応をするというのには変わりはないから」。

家庭を大切に人は会社でもいい仕事をするという発想で支援を続ける津曲社長。

「この『誰でも休みやすく、家族と自分らしく暮らす』取り組みが地域に広がり、子育てしやすいまちづくりに貢献できたらうれしいですね」と話していました。

負担の大きい妊婦健診。小林市立病院で受診できます。

宮崎大学発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野 川越 靖之 医局長

小林市立病院で妊婦健診を受診できることを知っていますか。宮崎大学、県立宮崎病院から非常勤医師が毎週金曜日に派遣され、妊婦健診、婦人科外来、HPVワクチン（子宮頸がんの予防ワクチン）の接種が受けられます。

妊婦健診の主な目的は胎児の発育とお母さんの状態の確認です。妊娠途中で血圧が上がる場合やむくみが強くなるなど、そういうことが起こっていないか確認するためなので、妊婦健診は必ず受診しましょう。

妊婦健診は全部で14回程度の受診が必要です。自分で運転して遠くの病院に通う人も多いと思います。近くの病院で受診してもらうことで、少しでも負担が減ればという目的で開設していますので、ぜひご利用ください。

市立病院では、健診のみとなるため、「健診の病院と分娩の病院が違うところで大丈夫かな」と不安に思われるかもしれませんが、事前に病院間の連携をとった状態での分娩となりますので安心して受診に来てください。



川越医局長（写真中央）と市立病院産婦人科スタッフ

こんな支援もあります

がんの予防につながります——
子宮頸がん予防ワクチン接種
9価HPVワクチン（シルガード9）を公費で接種できるようになりました



詳細はコチラ！

出産予定の妊婦の不安を軽減——
小林市出産サポート119
緊急の出産時に、妊婦を救急車で産院などに搬送します。（要登録）



詳細はコチラ！

妊娠を望む夫婦をサポート——
不妊検査費助成事業
不妊検査に係る費用を夫婦1組に対し3万円まで助成します。



詳細はコチラ！

知っていますか
～産後ケア～

主な産後ケアの内容



育児の相談



授乳のサポート

- ◆対象 出産後～1歳になる前日までの産婦
- ◆利用方法 市保健センターに電話 ☎ 23-4319

助産院、助産師が近くにいるよ。



（右）あかり助産院 藤井智子さん
（左）COMODO助産院 花原千尋さん

2人は「小林子育て応援ゆるの会」として、妊娠中の人や乳幼児を子育て中の人などが、安心して楽しく元気になるイベントも企画しています。



KK.KOSODATE.CHEER

産後ケアは、産後に心身の不調や育児不安などがある人などが対象のサポート事業です。小林市では、助産師が各家庭を訪問し、授乳や赤ちゃんが泣き止まないなどの悩みを抱える人たちを支えています。

「妊娠、出産というのは環境が大きく変化する、とても大変な期間なんです。小林市で産後ケアを行う助産師の藤井さんと花原さんはそのように話します。

実際、厚生労働省の調査によると、令和3年度は10

人に1人の母親に産後うつ
の疑いがありました。

「もう少し早く来てほしかった——」。実際に産後ケアに訪れた際そう言われたことがあると花原さん。

「お母さん達はみんながばっている。だからこそプレッシャーを感じてしま

う方も多い。近所に泣き声が聞こえないようにとか」。

近年は相談できる人が周囲におらず、自分たちで調べて解決しようとする必要が多

いと感じる藤井さん。そ

の結果、ケアを受ける適切な時期を逃し、不本意な状況になるケースもあるため、「少しでも早く相談してほしい」と話します。

「産後は人との会話が減ることに苦しむ人も多く、話し相手になること自体がよろこばれます」と2人。

「出産までは病院に相談できたのに——」。

どこに相談したらよいか分かりづらい産後の問題。一人でがんばりすぎず、近くの助産師に相談してみませんか。

産後ケアはもちろん、妊娠前～育児の悩みごと助産師として相談を受けます。気軽にご相談ください！

あかり助産院
小林市堤 2146-15
☎ 090-2068-3294

COMODO助産院
都城市中町 13-8
☎ 090-5088-3117



子育ては—— たの 楽しく



気らく 楽しく

愛するわが子を育てる。
楽しいことも多いけど、不安
や負担も感じるもの。
その思いや苦しみにみんな
寄り添えるまちななれば、子育
てを「気楽に」、「楽しく」そ
う
思えるパパママが増えるはず。
親の笑顔が子を増えるはず。
私たちが暮らすこのまちを、
もっと子どもたちの笑顔で照ら
される、明るいまちにしてい
きましょう。



11月12日開催「もくもくレース」の様子
1 お友だちのゴールを温かく見守る参加者ら
2 ゴールを喜ぶママと赤ちゃん
3 完走した可愛いわが子にメダル授与
4 レース前に意気込みを話すお兄ちゃん
5 涙を流しながらゴールを目指す赤ちゃん
6 完走メダルは手書きのメッセージ入り

近年、核家族化や地域のつながりの希薄化が進み、家庭や地域で育児の知恵や経験を共有することが難しくなっています。このように親が孤立しやすい環境で重要性が高まっているのが、子どもをゆつくり遊ばせられる、「親子」の、「子ども同士」の、「親同士」のふれあいの場。TENAMUビル2階の木育キッズスペース「もくもく」もその一つです。木のおもちゃで自由に遊べる子育て支援施設で、定期的に親子で楽しめるイベントを開催しています。11月12日にはハイハイレースなどを行う「もくもくレース」と題したイベントも行われ、21組の家族が交流を深めました。パパママだけの子育ては大変です。市内にある「ふれあいの場」に足を運んでみませんか。

パパママの

交流の場

子育てを楽しめる場をつくりたい

子どもたちには、小さいうちにいろいろな経験をして欲しい。そして、孤独なママパパを減らせるような交流の場になればと思い、「もくもくレース」などの親子イベントを企画しています。イベントで知り合い、仲良くなって一緒にお出かけしている様子などを見るのがうれしいですね。子育てのリフレッシュにもなるので気軽に参加しませんか。



STEP STEP25
各種イベント情報



すてっぷすてっぷ
せとやまあいか
瀬戸山愛香さん

こんな支援もあります

子どもの預かりや送迎をサポート—— ファミリー・サポート・センター

子どもを一時的に預けたい時などに利用できるサービスです。



詳細はコチラ！



親子で自由に集える場—— 子育て支援センター

子どもの遊び場であるとともに、保護者同士の交流や育児相談、情報提供など地域の子育て支援拠点のひとつです。

子育て支援センター「おひさま」

◆場所
小林市真方 89-1
(小林市保健センター 2階)



子育て支援センター「チポリーノ館」

◆場所
小林市細野 735-1
(認定こども園こぼと保育園内)



野尻のびのび子育て支援センター

◆場所
小林市野尻町東麓 2166-2
(野尻保育園横)

